大阪大学外国語学部ポルトガル語専攻主催イベント

ポルトガル語圏アフリカ諸国独立50周年

Quinquagésimo aniversário da independência
dos “Países Africanos de Língua Oficial Portuguesa”

5月31日(土)13:00～17:00 (12:30開場)

大阪大学 箕面キャンパス 1F 大講義室(ハイブリッド形式)

入場無料、会場は事前手続き不要、オンラインは要事前登録

使用言語：日本語、一部ポルトガル語(通訳あり)

https://forms.office.com/r/VRCrGprtE3

日本ではポルトガル語は「ブラジルの言語」としてよく知られていますが、実は**アフリカにもポルトガル語を公用語とする国があります**。

日本にとってアフリカはまだまだ「遠く」、「馴染みの薄い」地域ですが、その中でもさらに知られざる「**ポルトガル語圏アフリカ諸国**」について、**独立50周年**を機に少しでも知っていただくイベントです。

各国の大使や前名誉領事、そして各国を専門とする国内の研究者が、各国の未来、各国との出会い、今後の日本との関係の発展を語ります。また、本学学生が日本語とポルトガル語で各国について皆さんに紹介します。

一般的なイメージとは少し異なるアフリカの姿や、日本との意外なつながりなど、出会いと驚きをお楽しみください。

【13:00】開会挨拶

【13:10-14:10】外交関係者による講演：「独立50年と未来、これからの日本との関係」

テオドリンダ・ローザ・ロドリゲス・コエーリョ
駐日アンゴラ大使

鷹野 健太郎
前駐日サントメ・プリンシペ名誉領事

【14:10-15:00】学生発表セッション：ポルトガル語専攻有志

【15:00-15:20】アフリカ音楽&ダンス実演：YéréYa Africandance Company

【15:30-17:00】研究者による講演：「ポルトガル語圏アフリカとの出会いと研究、交流」

市之瀬 敦
(上智大学、教授)

青木 敬
(関西大学、准教授)

栗田 英幸
(愛媛大学、准教授)

【17:00】閉会挨拶

アクセス

- 北大阪急行線「**箕面船場阪大前**」2番出口(COM2号館)徒歩1分。
- 当日は**1階出入口のみ開放**となります。
- 駐車場、駐輪場はございません。

お問い合わせ：
大阪大学外国語学部
ポルトガル語専攻(鳥越)

大阪大学外国語学部ポルトガル語専攻主催イベント

ポルトガル語圏アフリカ諸国独立50周年

Quinquagésimo aniversário da independência
dos “Países Africanos de Língua Oficial Portuguesa”

2025年は、1975年にアフリカの旧ポルトガル植民地の**モザンビーク**、**カーボ・ヴェルデ**、**サントメ・プリンシペ**、**アンゴラ**が独立してから50周年になります。

ポルトガルのサラザール独裁政権(1933-74)は、国内では恐怖政治を行い、アフリカ植民地では1960年の「アフリカの年」以降も支配を続けていました。そのためポルトガルは「最後の植民地帝国」とも呼ばれ、国際社会から批判されていました。

1974年にポルトガル軍の若手将兵たちが10年以上続く植民地での戦争に反対して立ち上がり、無血クーデタ「**カーネーション革命**」でサラザール政権を打倒すると、翌1975年にはモザンビーク、カーボ・ヴェルデ、サントメ・プリンシペ、アンゴラが相次いで独立を達成しました。これに先立つ1973年には**ギニア・ビサウ**が独立を宣言しています。

その後1990年代まで続く長期内戦に突入したアンゴラやモザンビーク、クーデタが相次ぎ政情が安定しないギニア・ビサウ、大きな産業がないながらも安定して国を運営しているカーボ・ヴェルデやサントメ・プリンシペなど、それぞれの道を歩みながら、現在も「ポルトガル語圏アフリカ諸国(PALOP)」として緩やかに文化的つながりを維持しています。

招待講演者・出演者紹介

テオドリンダ・ローザ・ロドリゲス・コエーリョ
(駐日アンゴラ特命全権大使)

2017年から2023年まで在オーストリア・アンゴラ共和国大使、2022年より在スロバキア・アンゴラ共和国大使を兼務。2003年からニューヨーク国際連合アンゴラ政府代表部公使参事官兼事務局長を務めた経験もある。

2023年10月に在日アンゴラ共和国大使として着任後、二国間関係の強化、南部アフリカ開発共同体、アフリカ外交団の様々な取組において活躍。2024年7月21日に「投資の自由化、促進及び保護に関する日本国とアンゴラ共和国との間の協定」が発効し、経済外交関係の一層の強化を目指している。

鷹野 健太郎
(前駐日サントメ・プリンシペ名誉領事)

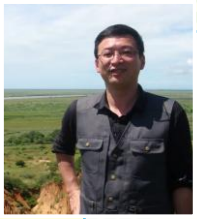
2018年～2024年まで、サントメ・プリンシペ民主共和国名誉領事を務める。日本で唯一の同国外交公館を設立・運営、初となる首脳バイ会談も実現し、日本とサントメ・プリンシペ間の交流促進に一定の役割を果たした。

市之瀬 敦
(上智大学、教授)

専門はポルトガル語語彙系クレオール諸語研究及びポルトガル語圏諸国近現代史研究。原稿の依頼には基本的に「ノー」は言わず、映画の解説だけでなく、サッカーのコラムも多数執筆。「ルゾフォニア」という語をキーワードに本を1冊書けないかと模索中。

青木 敬
(関西大学、准教授)

文化人類学者。専門はクレオール文化論。主なフィールドは西アフリカの島嶼国カーボヴェルデ。「ホーム」という概念を軸に、舞台芸術・小説・ドキュメンタリー映画といった多様な表現を通じて、人々の移動と記憶、アイデンティティの交差性を横断的に探求している。



栗田 英幸
(愛媛大学、准教授)

国際連携推進機構アセアン・アフリカエンゲージメント推進室准教授。専門は、経済学を基盤とした開発学、環境学、平和学。2014年に開設した愛媛大学モザンビークサテライトオフィスの管理者として、産官学民によるオール愛媛でのモザンビーク交流の促進に尽力してきた。今では「モザンビークといえば愛媛県」と呼ばれるほどの交流の蓄積がある。

YéréYa Africandance Company

“YéréYa（イェレヤ）”は、「自身・自ら」を意味するアフリカの言葉。アフリカ音楽と踊りを通じて“自分を知る”ことを提案し、北摂を拠点にダンスやドラムのワークショップやイベントを開催しています。